ふくやま草戸千軒ミュージアム ニュース

～第133号～

広島県立歴史博物館

HIROSHIMA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

福山城築城400年で分かった新事実！

福山城の石垣修理

宝暦九年（一七五九）の修理事例を示す古地図資料

福山城築城から四〇〇年目となった昨年は、様々な関連イベントが催され、福山城天守のリニューアルを初め関連する多くのニュースで盛り上がりました。

そのような中、当館でも、昨年七～八月に公開した守屋壽コレクション所収の福山城の絵図が、これまで知られていない新たな石垣修理の事実を伝える資料であることが判明しました。この絵図から読み取れることを次のページで御紹介します。

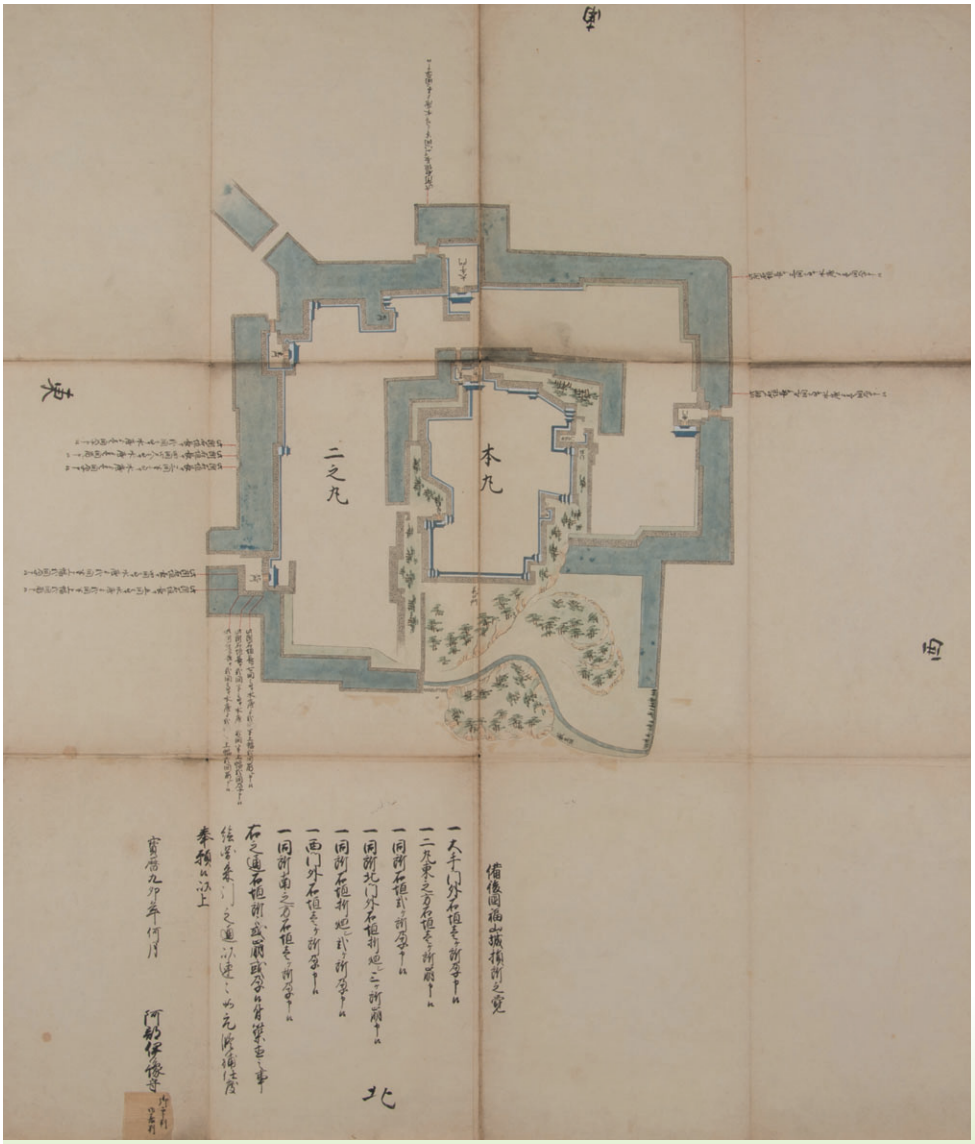


写真1
備後福山城絵図　備後国福山城損所之図　守屋壽コレクション　当館蔵

福山城の石垣修理 ～新たに分かった３つのこと～

分かったこと その①

新たな修理事例

事例	実施年	藩主	石垣修理の内容	絵図
1	慶安２年（1649）	水野勝俊	「本丸艮方東之方西之方此参加所石垣破損」修復	無
2	延宝４年（1676）	水野勝種	「本丸坤之方櫓下石垣孕」の修築等	無
3	元文５年（1740）	阿部正福	「二丸外西北之方堀端石垣」の「崩」の修復（１地点）	有
4	宝暦９年（1759）	阿部正右	二の丸等７地点11か所の「孕（＝膨らみ）」・「崩」の修復	有

上の表は，江戸時代に行った福山城の石垣修理をまとめたものです。これまでは1～3までが知られていましたが，今回，新たに4番目の事例として，宝暦9年（1759）にも修理が行われていたことが分かりました。

写真2　備後国福山城絵図（石垣破損之覚）（福山市歴史資料室所蔵）

分かったこと その②

修理の頻度

今回判明した石垣の修理（表の事例4）は，その前の修理（表の事例3）から19年後に行われました。この時期は築城から100年以上が経ち，修理が必要となったものと思われますが，20年程度で修理を行っていたとすれば，18世紀後半～幕末にかけての新たな修理事例も，今後見つかるかもしれません。

今回は，石垣修理の頻度を知る一つの事例として貴重と言えます。

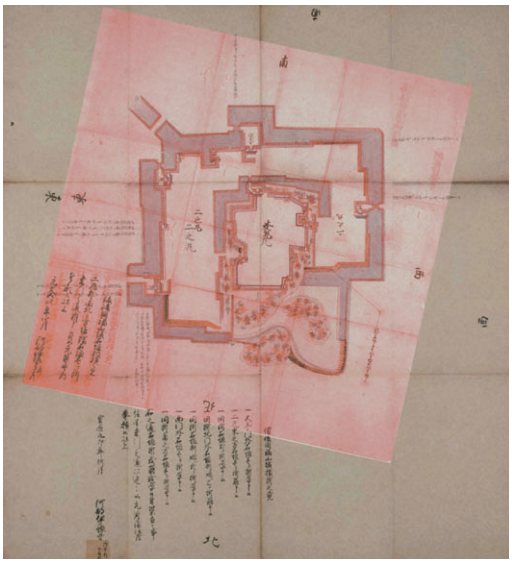


図　写真1と写真2を重ね合わせた合成図（重なりが分かりやすいように写真2は赤色で表示しています。）

分かったこと その③

幕府に提出する絵図の原図

江戸幕府は，全国の諸藩に対し，城を修理する際には幕府への届出を義務付けていました。今回御紹介した絵図（写真1）も，その事務手続きの中で福山藩が作成した絵図で，修理箇所や規模が図示されています。

一方，その前回の修理（表の事例3）の時も同様に絵図が残っており，修理箇所等が示されています（写真2）。

この二つの絵図を図上で重ね合わせてみたところ，福山城の郭の部分がぴったり重なることが分かりました（右図）。このことは，福山藩が幕府に提出する絵図の「ひな型（原図）」を持っていて，石垣など城の修理をする際に，それを写していたことをうかがわせます。

茶山が収集したモノ

～近世文化展示室「菅茶山の世界」第26回展示から～

近世文化展示室「菅茶山の世界」では，令和4年12月9日（金）から令和5年1月31日（火）まで，「茶山が収集したモノ」というテーマで，菅茶山（1748～1827）が，各地の文人（儒学や歴史などの高度な教養を持つ知識人や，詩・書・画など様々な文化的活動を行う文化人）たちとの交流や，福山藩に儒者として仕える過程で収集した書や絵画，古文書などを紹介しました。ここでは，展示作品のなかから，池大雅筆「天門山之図」（菅茶山関係資料，当館蔵）について，会場では説明しきれなかったエピソードも交えて紹介します。

池大雅との出会い

明和7年（1770），菅茶山は京都へ遊学しました。この時，茶山は友人の飯田玄泉の紹介で，日本を代表する文人画家の一人である池大雅（1723～76）と出会いました。玄泉は，大雅に絵を学んでおり，この縁で茶山と大雅も出会いました。

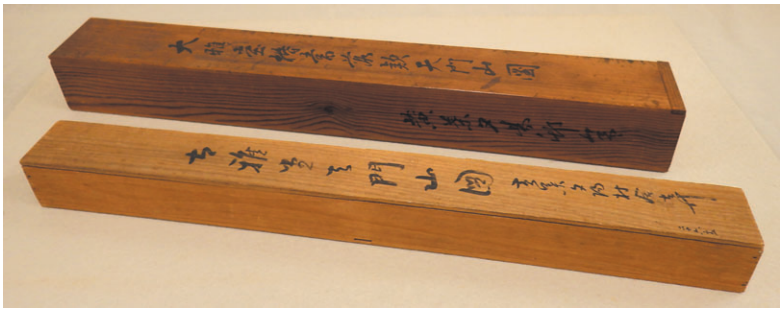
池大雅筆「天門山之図」（菅茶山関係資料，当館蔵）

制作の経緯

京都遊学中のある日，茶山は，玄泉から大雅が描いた天門山の絵を自慢げに見せられました。天門山とは，中国・安徽省にある二つの山（博望山と梁山，東梁山と西梁山とも言う）の総称で，その名は，長江を挟んで二つの山が門のように対峙する姿によります。一目でその絵を気に入った茶山でしたが，玄泉の絵の上部には唐の詩人・李白（701～62）の詩が書き添えられており，大雅の落款（サイン）は草書体（文字を速く書くために字画を大幅に簡略化したもの）で書かれていました。

それが気に入らなかった茶山は，李白の詩を省き，落款の書体を楷書に改めた天門山の絵の制作を大雅に依頼しました。こうして完成したのが，この「天門山之図」です。この時，大雅は48歳，気力・画技ともに充実し，文人画家として最盛期を迎えていました。一方の茶山は，まだ駆け出しの23歳の若者でした。

この絵は掛軸に仕立てられ，現在は内箱と外箱の二重箱に大切に保管されています。この内箱は，文政元年（1818）に茶山が新調したものですが，その蓋裏と身の内側側面には，往事を懐かしむ茶山により，絵の制作の経緯が記されています。この文章は，後に字句を一部修正して，『黄葉夕陽村舎文』巻4に「題大雅画軸匣（大雅の画軸の匣に題す）」として収録されました。



内箱（手前）と外箱（奥）

菅茶山による内箱への書き込み

李白の詩

李白の天門山の詩については,七言絶句「望天門山（天門山を望む）」がよく知られており,大雅の当初の絵に賛（絵の内容を補うために書き添えられた詩文）として書かれていた詩も,おそらくこの詩を指すと思われます。

天門中断楚江開　天門中断えて楚江開く
碧水東流至北廻　碧水東に流れて北に至って廻る
両岸青山相対出　両岸の青山相対して出で
孤帆一片日辺来　孤帆一片日辺より来る

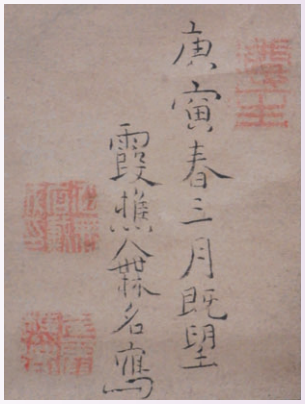
天門山は真ん中が断えて,その間を楚江（長江）が流れている。ここを青々と深く澄んだ水が東に流れて,更に北に向きを変えている。両岸には青山が相対して立ち,その間を一片の白帆が,まるで太陽のあたりから流れ下って来たように浮かんでいる。

長江に浮かぶ白帆

画面右上には,東から北へと流れを変える長江に舟の白帆がポツンと浮かぶ姿が描かれるなど,詩の内容と絵の情景はとてもよく合致しています。本来,文人画とは絵と賛を併せて味わうものですが,あえて李白の詩を省略することで,この絵は茶山にとって,分かる人には分かる,より味わい深いものになったのかもしれません。

池大雅の書

この絵の落款は,茶山の求めに応じて,楷書で「庚寅春三月既望　霞樵無名写」と書かれています。「庚寅」は明和7年,「既望」は16日の夜,「霞樵」は号,「無名」は名です。大雅といえば,絵のみに目が向けられがちですが,享保14年（1729）,当時7歳の大雅は,黄檗山万福寺の杲堂元昶（1663～1733,第12代住持）の前で書を披露して大いに賞賛されるなど,その字の書きぶりには,幼い頃から目を見張るものがありました。



落款

「天門山之図」の表具

先述の内箱の記載の末尾には,茶山が「天門山之図」の木箱（現在の内箱）を新調する際に,今は亡き大雅や玄泉のことを懐かしみながらこの文章を書いたとあり,またそれに続けて,「裱装粗悪今改めざるは旧物を捐つるを欲せずと云う（裱装粗悪今不改者不欲捐旧物云）」と記されています。これにより,この絵の表具（表装）の状態は決してよくないものの,表具にも思い出が詰まっているため,木箱と共にあえて表具を新調することまではしなかったということが分かります。

この絵を収集してから半世紀が経過し,今や茶山にとって,この絵は表具も含めて大切な宝物となったのでした。

全景

はくぶつかんこぼれ話28

亀山第１号古墳は,福山市神辺町道上にある丘陵上に築造された直径約28mの円墳です。埋葬施設は粘土槨で,割竹形木棺が安置されたと考えられ,さらに1,000点以上の副葬品が出土しています。これらのことから,亀山第１号古墳は,古墳時代中期の備後南部を考える上でも,重要な古墳として位置付けられています。

1. 亀山第１号古墳のなが～い武器

亀山第１号古墳の粘土槨の上面からは,鉄矛と筒形銅器が出土しています（写真１）。筒形銅器は、石突や杖頭に用いられたと考えられる,謎の多い青銅製の遺物です。もし,この筒形銅器が石突として用いられた場合,粘土槨の上に長柄武器が副葬されたと考えられます。

長さを復元する前に,出土状況を見てみましょう（図１）。まず,矛の柄部分は,木質のため残っていません。さらに,木棺が腐朽したことで粘土槨が陥没したため,鉄矛や筒形銅器は副葬された元の位置にある可能性が低いと考えられます。そのためなのか、鉄矛と筒形銅器の向きは合っていません。

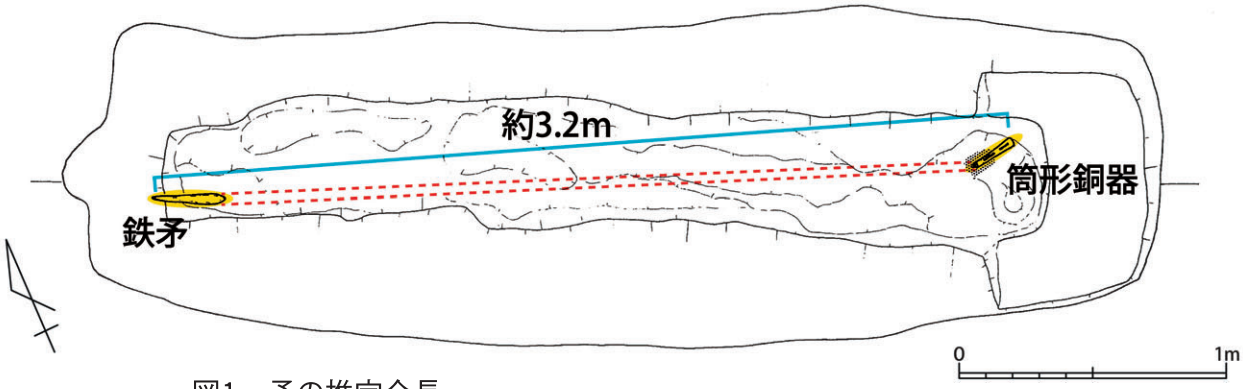


図1　矛の推定全長
（広島県教育委員会1983『亀山遺跡―第2次発掘調査概報―』を基に作成）

写真1　鉄矛と筒形銅器
（鉄矛:当館蔵,筒形銅器:広島県立歴史民俗資料館蔵）

これらの前提の元で,鉄矛と筒形銅器を見てみると,図面上では鉄矛の先端から筒形銅器底部までの長さは,約3.2mに復元できます。バスケットボールのゴールの高さが約3mであるのを参考にすると,その長さが想像してもらえると思います。

副葬品には他に鉄矛３点,鉄槍４点が出土していますが,柄や石突にあたる部分が出土していないため,その長さは分かりません。もしかすると,同様の長さの長柄武器が副葬されていたかもしれません。

ちなみに,全国の出土例を参照してみると,最大で約4.7mに復元できる例もあるようです。

2.冬?春?亀山第1号古墳にはいつ埋葬された?
～遺物に付着した植物種子～

次は,亀山第１号古墳の刀子（とうす）に付着している植物種子についてお話しします。

その植物種子とは,オナモミです。刀子の刃部に付着しており,錆化しています。

オナモミは,よく「ひっつき虫･くっつき虫」と呼ばれ,子どもたちが衣服などに投げ合って遊ぶ植物種子の一つです。広島では,「ひっつきもっつき」とも呼んでいます。在来種のオナモミは,環境省によって絶滅危惧（ぜつめつきぐ）Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）に指定されています。また各都道府県で見ていくと,広島県での分布は分かっていませんが,隣の岡山県では絶滅危惧Ⅰ類に指定されており,さらに近畿などでは絶滅していると考えられています。私たちが道端で見るオナモミは,すでに外来種の「オオオナモミ」や「イガオナモミ」に取って代わられている可能性は十分に考えられます。

写真2
オナモミが付着した刀子（広島県立歴史民俗資料館蔵）

話を戻して,オナモミの生態を見ていくと,8～10月ごろが花期とされています。その後,秋～冬にかけて,よく見るトゲトゲした種子が実ります。このことを考慮すると,亀山第１号古墳の被葬者は,冬～春ごろに埋葬された可能性があるのではないでしょうか。または,遺体がオナモミのような雑草が生えている環境の近くにあったことを示唆しているのかもしれません。どちらにしても,オナモミの種子が実っている期間に埋葬されたのは間違いないのではないかと考えます。

このように,オナモミという種子一つだけでも,季節や周辺の環境など色々なことを考えることができます。

写真3
オナモミの拡大写真（広島県立歴史民俗資料館蔵）

今回は,亀山第１号古墳に関わる二つのお話をしました。どちらも,推測の域を出ないものでしたが,皆さんはどうお考えになりましたか。普段は気にも留めないちょっとしたモノに注目してみると,新たな事実を気付けるかもしれません。

頼山陽史跡資料館

特別展「ひな人形と春の書画展」

令和5年3月2日（木）～3月31日（金）

3月3日の上巳の節句には,子どもの健やかな成長を願ってひな人形が飾られます。

頼山陽史跡資料館では,毎年春が近づくこの季節に,頼家ゆかりのひな人形を紹介する展覧会を開催してきました。今年も色鮮やかなひな人形やひな道具,そして全国各地の民芸びなや春にちなんだ書画を展示します。また,資料館のロビーには,広島市立基町幼稚園の園児たちによる,手作りのかわいいひな人形が飾られ,皆様をお出迎えします。

頼山陽史跡資料館で春の訪れを感じていただければと思います。

大正時代のひな人形（個人蔵）
調度品の豊富さと精巧さが特徴的です。

富山の抱き雛
（川手コレクション・頼山陽記念文化財団蔵）
郷土色豊かな民芸びなも展示します。

■会　　場／頼山陽史跡資料館
（広島市中区袋町5-15）
TEL：082-298-5051
■時　　間／9:30～17:00（入館は16:30まで）
■休 館 日／月曜日
■入 館 料／一般 300円（240円），
65歳以上 240円，
小中学生 150円（120円）
※（　）は団体20名以上の料金

R A I S A N Y O U

博　物　館　掲　示　板

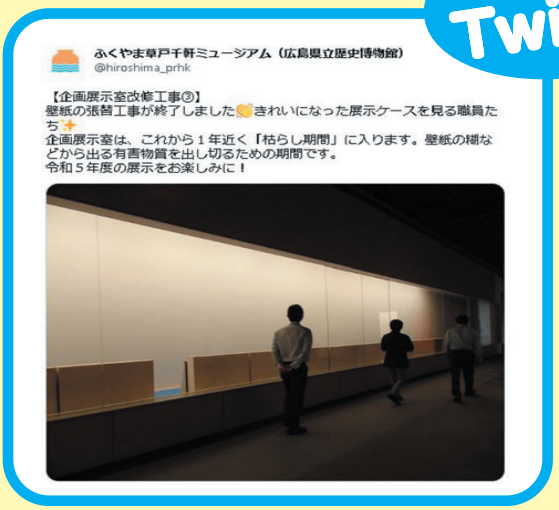
ツイッターによる報告！

改修工事を進めています！①

当館は，今年度開館から33年目を迎え，４月当初から本格的な改修工事を行っています。

まず企画展示室では，展示ケースの壁紙や，床のタイルカーペットの張り替えを行いました。その後，来年度にかけて，トイレやエレベーターの改修工事を行っていきます。

ツイッター
Twitter



この，令和５年２月１日（水）から３月31日（金）の期間は，トイレの改修工事に伴い臨時休館しています。御利用の皆様には大変御迷惑をおかけしますが，どうぞよろしくお願いいたします。

展示公開以外の業務は行っています。

ふくやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館）ニュース　第133号

編集・発行　令和５年３月22日

ふくやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館）
HIROSHIMA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒720-0067 広島県福山市西町二丁目４-１
TEL 084-931-2513　FAX 084-931-2514
e-mailアドレス rhksoumu@pref.hiroshima.lg.jp
ホームページ https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/rekishih/
ツイッター https://twitter.com/hiroshima_prhk

▲ホームページ　▲ツイッター